

水資源の管理

原子炉をはじめとする研究開発施設・機器の冷却水、従業員等の飲料、トイレ等の生活用水に水資源を使用しています。一方、排水に関しては、排水量を適切に把握・管理しています。

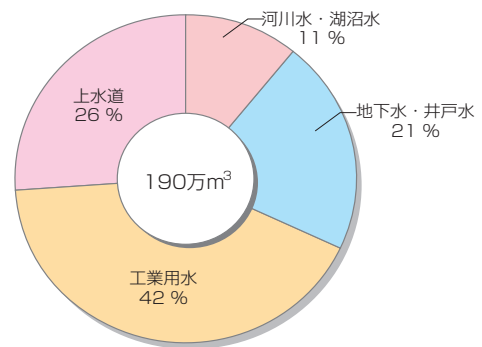
水資源投入

上水道、工業用水、地下水、井戸水及び河川水・湖沼水に関する水資源の総投入量は約 190 万 m^3 （前年度：約 410 万 m^3 ）で、工業用水、河川水、地下水等を原水として取り入れ、各拠点内の処理施設で浄化処理などをして利用しています。水資源投入量が前年度に比べ減少した理由は、原科研で河川水・湖沼水から公共水に切り替え、浄水場水処理装置を停止し、その排水を希釈する必要がなくなったことによります。

上水道、工業用水として地元自治体等から購入している量は、水資源投入量全体の約 68%（前年度：約 33%）に相当する約 130 万 m^3 （前年度：約 130 万 m^3 ）で、前年度と同じとなっています。

各拠点等では節水コマの取り付けや、止水栓を絞るなど水が出過ぎないようにすること、漏水箇所の早期発見、補修を行うことなどで節水に努めています。

水資源投入量（2009年度）



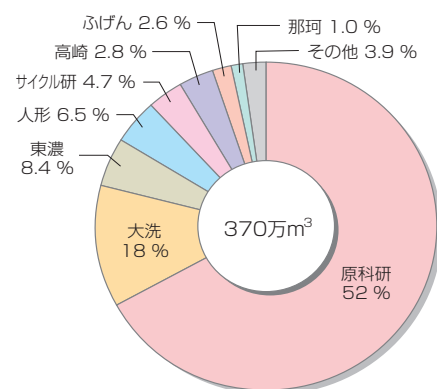
排水

主要な排水としては、管理区域¹⁾及び非管理区域における研究開発で使用後の排水を、機構内の処理施設で中和処理などをして公共用水域へ排出するか、市町村で処理する下水道に放流します。

原子力機構における総排水量は約 370 万 m^3 （前年度：約 570 万 m^3 ）で、これには雨水も含まれます。総排水量の内訳は公共用水域へ約 370 万 m^3 、下水道へ約 4.4 万 m^3 （前年度：約 2.2 万 m^3 ）でした。なお、排水量の減少は主に投入量の減少によるものです。

公共用水域への排出のうち、約 99%は非管理区域からの排水で、管理区域からの排水は約 1.4 %です。管理区域からの排水は、放射性物質濃度が基準値以下であることを確認してから排水しています。

排水量（2009年度）



その他：幌延、青森、本部、NEAT、敦賀、もんじゅ、国際セ、関西研

1) 管理区域：放射線あるいは放射性物質による被ばくから人を防護するために放射線管理下におかれ、立入りが制限される区域。